

2024年度(令和6年度)学校関係者評価

日本医科大学看護専門学校

2024年度(令和6年度) 学校関係者評価

1. 目的

当校における教育活動及び学校運営の状況について、自己点検報告書「学校運営評価」の結果から評価し、学校運営の継続的な改善を図るための助言をする。

2. 実施方法

各委員に対して自己点検報告書「学校運営評価」を郵送し、当該年度の取り組み及び課題の達成度について、以下の評価尺度に基づき、点数評価とコメントの記入を依頼した。委員の意見を纏め、また、委員から質問等があった場合は、学校側の解釈・回答を含めて記載したうえで、これを各委員に送付して点検を受けた。

3. 各カテゴリーの評価点数

I 教育理念・目的・目標	2.8	V 入学	3.0
II 教育課程経営	3.0	VI 卒業・就業・進学	3.0
III 教育活動・評価	3.0	VII 地域社会／国際交流	3.0
IV 経営・管理過程	3.0	VIII 研究	2.9

【評価尺度】 「カテゴリーごとの取り組みは優れている／前年度の課題が解決された」

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

4. 2024年度 総評

2024年度は、新型コロナウイルス感染症の波は繰り返していたが、社会生活は急速に以前の状況に戻っていった。当校ではマスク装着を継続し感染防止をしながら対面授業に戻せた点良かった。また臨地実習は病院、高齢者施設において引き続き少人数制で現地で実施できた。

課題1～6については以下のとおりである。実習指導者協議会では、学生の技術到達状況やその分析を報告している。効果的な実習方法についての協議や教員と実習指導者間の連携については、引き続き行っていく必要がある(課題1)。

教育活動では、故障したシミュレーターを新製品(1台)に買い替え、充実したシミュレーターを演習や学生の実習前練習に活用できている。教育環境として、eラーニング、感染症による出席停止者及び単位修得試験に向けた講義録画配信も、他校では行っていない取り組みのため、学生の学習効果向上のため継続が期待される。シミュレーション学習は、技術経験録の項目と照合しながら、一層実習前準備等に活用することが期待される(課題2)。

受験生に向けた情報発信として、学校案内パンフレットの新規制作とInstagramへの投稿開始は、受験生確保に向けて効果が期待できる(課題3)。

国家試験対策と臨地実習の連結については、模擬試験の状況設定問題の内容や正答率を各領域教員が確認し、授業や実習指導に生かす取り組みが定着している。そのため、この課題は達成できたと見なす(課題4)。

第114回国家試験結果は100%(全国平均95.9%)であった。引き続き学年や個人の特性に合わせた国家試験対策を練り、取り組むことが期待される(課題5)。

卒業生の91%が日本医科大学付属4病院に就職しており、卒業生の動向を看護部や人事部から情報提供してもらい、社会性の涵養などの人材育成上の課題等をより明確にすることが今後も望まれる(課題6)。

5. 今後の課題

学校関係者評価を終えて、次年度の課題は以下のとおりである。

カテゴリー	課 題
II 教育課程経営	1. 実習協議会において、制限のある臨地実習における効果的な実習方法を協議する。
III 教育活動・評価	2. シミュレータ等教育機器を、実習前練習に学生が主体的に利用する。
V 入学	3. 受験生に向けた情報発信に電子媒体を活用する。
VI 卒業・就業・進学	4. 国家試験合格률을安定的に高める方策を練る。
	5. 卒業生の就業先との情報交換を行い、人材育成上の課題を明確にする。